

# 花火〇×クイズ

1	花火の発明の地は中国だった。〇か×か。	〇 紀元前3世紀の中国で爆竹が使用されたのが起源だという説もあるが、最初期の花火は6世紀、中国で火薬が使われるようになるのとはほぼ同時期に作られはじめたと考えられている。ただし、10世紀まで花火は存在しなかったという主張もあるが、いずれにしても発明の地は中国であったとされる。
2	花火大会で行う打ち上げ花火。花火の打ち上げはそれぞれの町内の役員が行っている。〇か×か。	× 一般の者は使用することが出来ない花火玩具は誰でも使用できるが、打上花火(煙火)の点火作業を行うことができるのは、日本煙火協会が発行する「煙火消費保安手帳」を所持した煙火消費従事者に限られる。日本では趣味でアマチュアが花火を作るといふ事も絶対にできません。
3	菊のように球形に開く打ち上げ花火を総称して「玉物」という。〇か×か。	× 割物 代表的な打上花火で、破裂したときに星が球状に飛散する。また、上空で二つに割れて中から星などが出るものを「ポカ物」という。
4	検査に合格したおもちゃ花火には安全を証明する為つけられるマークは「JIS」マークである。〇か×か。	× SF 「Safety Fireworks(安全な花火)」の略。
5	おもちゃ花火の消費期限は3ヶ月である。〇か×か。	× 一般に10年といわれているが、特に決められている訳ではない。
6	花火を携行して交通機関を利用する場合、持ち込みに禁止や制限があり、注意が必要だが、宅配便での発送には制限がない。	× 宅配便での発送はできない また、航空機を利用して旅行する場合、安全上の理由から少量であっても機内への持ち込みも受託手荷物の取り扱いも出来ない。列車・バスを利用する場合、少量の持ち込みはできるが、持ち込める量に制限がある。
7	線香花火の“咲き方”は4種類の植物(散り菊、牡丹、松葉、柳)にたとえられますが、火をつけた直後は牡丹とたとえられる。〇か×か。	〇 牡丹 火がついてから消えるまでを「牡丹→松葉→柳→散り菊」と表現される。また、最も長く安定させて燃えさせるには45度の角度に傾けるとよい。
8	花火をこよなく愛し、「今年の花火見物はどこへ行こうかな」という言葉を残して亡くなった画家は山下清である。〇か×か。	〇 山下清は花火をこよなく愛し、『長岡の花火』『富田林の花火』などの作品を残している。
9	昼花火の一種の上空で破裂した玉の中に袋が入っており、万国旗やパラシュートが降りてくる仕組みの花火をロケット花火という。〇か×か。	× パラシュート花火 1931年に細谷火工によって製造されたものが始まりとされる。電線にひっかかるなどの障害が生じるため、打ち上げの際には注意が必要。
10	花火大会のクライマックスによく使われる滝のように流れるように見える巨大な仕掛け花火の名前を「ナイアガラ」という。〇か×か。	〇 アメリカとカナダの国境にあるナイアガラの滝のように見えることから。
11	花火の赤い色を出すために使われる物質は「炭酸ストロンチウム」黄色は「シュウ酸ナトリウム」、では、「硝酸バリウム」は緑色が出る。〇か×か。	〇 花火の着色には炎色反応(=物質がそれぞれ特有の色の炎を出して燃える現象)が使われている。

12	1967年に 花火の日が8月1日に制定されたのは、花火事故がもととなっている。○か×か。	○ 戦後、花火が解禁された1948年8月1日の記念に、東京本所厩橋で大規模な花火爆発事故の起きた1955年8月1日の追悼、世界最大ともいわれる教祖祭PL花火芸術の開催日8月1日の記念を兼ねこのほか両国川開きが旧暦5月28日であったことから、5月28日も花火の日となっている。
13	1950年代から1960年代にかけては花火工場の爆発事故が多く、毎年10人以上の死者が出ていた時代もあった。○か×か。	○ 花火工場が爆発ほか、近隣の建造物や一般人の生命に危害を及ぼしたものもあり、徐々に花火製造に関する規制が厳しくなった。慶安元年(1648年)、寛文5年(1665年)、寛文10年(1670年)などにも花火禁止令がだされ、打ち上げ事故がおき、禁令がだされるということを繰り返したようである。
14	打ち上げ花火の「たーまーやー」「かーぎーやー」というかけ声は花火の種類のことを言っている。○か×か。	× 「鍵屋」「玉屋」という江戸の花火を代表した花火業者の名前
15	日本で最も古い花火業者は、東京(当時の江戸)の宗家花火玉屋である。○か×か。	× 宗家花火鍵屋 1659年に初代弥兵衛がおもちゃ花火を売り出した。弥兵衛はその後研究を続け、両国横山町に店を構え、「鍵屋」を屋号として代々世襲するようになった。玉屋は六台目の鍵屋の手代であった清吉が1810年に暖簾分けをし、市兵衛と改名の上、両国広小路吉川町に店を構えたのが始まりである
16	「鍵屋」「玉屋」とは、それぞれの職人の前職から名前を取って名付けられている。○か×か。	× 守護神にあやかり名付けられた。鍵屋の守護神であるお稲荷さんの狐が、一方は鍵をくわえ、一方は玉をくわえていたところから。鍵屋の七代目が番頭の清七にのれん分けする際、玉屋の屋号を与えたのも、もう一方のお稲荷さんがくわえていた玉にあやかるようにとの意図であったといわれている。
17	現在でも鍵屋では、花火の打ち上げを昔ながらに「手打ち(人の手で打ち揚げる手法)」で行っている。○か×か。	× 「電気式のスイッチ操作式」で行っている 鍵屋が開発した「電気点火器」により、花火への点火を「手打ち(人の手で打ち揚げる手法)」から「スイッチ操作式」に変え、100%電気を使用し安全性を高めている。
18	江戸時代にライバルだった花火屋「玉屋」と「鍵屋」の現在は残念ながら両家とももうない。○か×か。	× 鍵屋は健在。玉屋は失火のため江戸から追放されて潰れたが、鍵屋は健在で天野安喜子さんが15代目当主を務めている。(2016. 7月現在)
19	町内の花火大会でもお金さえ出せばどこの町内でも大玉の花火を打ち上げることができる。○か×か。	× 都道府県ごとに定められた広さのある場所が必要。 予算もありますが大玉の花火大会で打ち上げることができる最大の玉の大きさは「保安距離」によって限定されます。これは打ち上げ場所から観客や付近の建物まで玉の大きさに合わせて、一定の距離(10号で半径290メートルなど)を置かなければならないという安全距離で、法律で定め、都道府県により規定が違っています
20	花火の種類、複雑さ、花火師により価格が大きく異なるが、一般的な打ち上げ花火の一発あたりの相場は、三尺玉(打ち上げ高さが600m、玉の開きが550m程のもの)で、「1発約150万円」である。○か×か。	○ 花火の種類、複雑さ、花火師により価格が大きく異なるが、一般的な打ち上げ花火の一発あたりの相場は 3号玉(直径約8.5cm、重さ0.2kg、打上高さ120m、開き60m)が約3,400円 5号玉が約1万円 10号玉(直径約30cm、重さ8.5kg、打上高さ330m、開き320m)が約6万円 20号玉が約55万円 正三尺玉(直径約88.5cm、重さ280kg、打上高さ600m、開き550m)が約150万円 正四尺玉が約260万円